第 40 回（令和８（2026）年度第２回）
公立大学法人 公立小松大学 経営審議会 議事概要

１　日　時　　令和８年６月 24 日（水）13 時 28 分～15 時 18 分

２　場　所　　中央第２キャンパス会議室

３　出席者

小松委員長（理事長）、志村副委員長（学長）、佐川委員（副学長）、和田委員、鈴木委員、越田委員、山岸委員、清水委員、沼田委員

監　事

松本監事、能登監事

理　事

山本理事

欠席者

新家委員

４　議　事

(1)　前回、議事概要の確認

委員長より前回の議事概要について説明があり、原案どおり承認された。

(2)　審議事項

①　名誉理事長及び名誉学長称号授与について

資料２に基づき、委員長より、名誉理事長称号授与について、副委員長より、名誉学長称号授与について、それぞれ候補者ならびに推薦理由について説明があった。審議の結果、いずれも原案通り承認された。なお、事務局次長兼総務課長より、７月以降に称号記の交付を予定しており、これに併せて報道発表を行う旨、事務連絡があった。

②－１　令和７(2025)年度事業報告について

事務局次長兼総務課長より、資料３および資料４に基づき、令和７(2025)年度事業報告について、説明があった。審議の結果、「全体評価」について、本日の発言を踏まえて再検討することを条件に、承認された。各委員の主な発言は下記のとおり。

・越田委員：学生の留年状況について伺いたい。

（回答）事務局次長兼総務課長：留年者および休学者の人数や内訳、主な理

由などについて説明。

（回答）副委員長：補足として、合理的配慮が必要な学生への対応については、令和７年度からヒューマンリソースコーディネーション機構を設置し、支援体制や制度の整備を進め、丁寧に対応している。

（意見）鈴木委員：合理的配慮を必要とする学生への支援が充実している大学であるとの評判が広まれば、大学の価値の向上にもつながるものと考えられるため、今後もしっかりと取り組んでいただきたい。

・山岸委員：県内就職内定率に関する大学としての今後の方針は。また、県内就職内定率が増加した要因について伺いたい。

（回答）副委員長：今後の方針については、固定したものを設定しているわけではないが、常に様々なステークホルダーの意見を聞きながら検討していくこととしている。県内就職内定率の増加の要因については、県内の病院への就職者数の増加が大きな要因である考えられる。

（回答）委員長：地域には素晴らしい企業がたくさんあり、その魅力を学生に知ってもらうことが重要である。協力会の企業等、うまくマッチングを図りながら取り組んでいきたい。

・鈴木委員：進捗状況が非常に良好であり、目標値を大幅に上回っていることから、「全体評価」について、極めて順調などと、より高く評価してよいと考える。

・沼田委員：地域に愛される大学であるためには、公開講座等を通じて学びの機会を提供することが重要あると考えるが、市民大学が閉講したと記載されている。今後はどのように考えているのか。

（回答）事務局次長兼総務課長：令和７年度からは新しく「市民公開講座～Open UniverCity～」として、市民大学をさらにパワーアップさせた形で実施している。

（回答）副委員長：今後は、一定の講座を修了した受講者を認定し、修了証を交付するマイクロクレデンシャルの導入など、参加者が達成感を得られるような工夫を図りながら、充実させていきたい。

②－２　令和７(2025)年度決算および監査報告について

事務局次長兼財務課長より、資料５に基づき令和７(2025)年度決算について、説明があった。また、能登監事より、資料６に基づき、監査結果について報告があり、適切に処理されている旨説明があった。審議の結果、原案通り承認された。

③　北陸先端科学技術大学院大学との包括連携協定締結について

副委員長より、資料７に基づき北陸先端科学技術大学院大学との包括連携協定

締結について説明があった。鈴木委員より、協定内容に関する質問があり、事務局次長総務課長より、スタンダードな内容である旨回答があった。審議の結果、原案通り承認された。

④　学長選考会議委員の選出について

事務局次長兼総務課長より、資料８に基づき学長選考会議の委員選出について説明があった。審議の結果、清水委員、山岸委員、和田委員を選出することで決定した。

(3)　報告事項

①　令和８(2026)年度公立小松大学協力会について

事務局次長兼総務課長より、資料９に基づき令和８(2026)年度公立小松大学協力会について報告があった。

(4)　その他

①　松本監事ご挨拶について

退任予定の松本監事より、挨拶があった。

②　次回経営審議会開催時期について

事務局次長兼総務課長より、次回の開催は９月末で調整させていただきたい旨、事務連絡があった。

以　上